

## 第2章 被害状況と災害廃棄物の量

### 被害状況(平成29年5月2日時点)

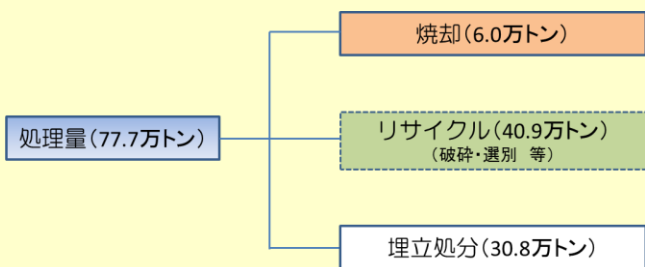
区分	棟数	備考
全壊	2,454棟	調査継続中 (棟数には納屋を含み、事業所等を除く。)
大規模半壊	2,927棟	
半壊	12,236棟	
合計	17,617棟	

### 種類別災害廃棄物の量(平成29年3末日推計値)

種類	発生量(推計)	備考
コンクリート類	730,000t	セメント瓦含む
木くず	154,000t	家具類含む
瓦くず	60,000t	焼き瓦
金属くず	41,000t	アルミサッシ等
混合ガレキ	492,000t	土砂混じりの解体残さ、不燃物、可燃物、石膏ボード、畳等
その他	2,000t	家電4品目、処理困難物等
合計	1,479,000t	

### 処理状況

平成29年4月末現在までの災害廃棄物の処理実績は77.7万トン(処理進捗率約53%)となっている。

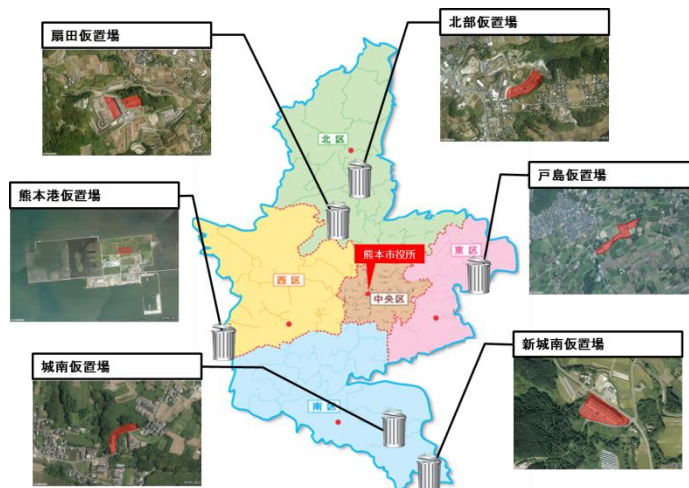


※ 対象として約13,900件を想定。今後、損壊家屋等の解体・撤去の状況等を踏まえ、災害廃棄物処理の各過程において災害廃棄物の量及び質に係る精査を行うこととしており、災害廃棄物の推計量について変動しうることに留意。

## 第4章 災害廃棄物の処理方法

### 二次仮置場の設置状況

排出区分	名称	面積	所在地
片づけガレキ 解体ガレキ	戸島仮置場	8.2ha	東区戸島町1489番地
	城南仮置場	0.5ha	南区城南町下宮地34-1外
解体ガレキ	新城南仮置場	1.3ha	南区城南町鰐瀬2127番地の2
	熊本港仮置場	2.4ha	西区新港1丁目4番1
	扇田環境センター内	9.1ha	北区釜尾町811番地
	北部仮置場	2.0ha	北区楠野町1046-2
合計		23.5ha	—



### 広域処理

- 解体ガレキのうち、熊本市内、県内で処理が困難な場合は、九州内をはじめ日本全国において処理を行う。
- 災害廃棄物の運搬にあたっては、災害廃棄物の性状等に応じて、陸送だけでなく鉄道・船舶を組み合わせることにより、効果的・効率的に実施する。

#### 【広域処理の例】

- ・ 木くず、畳、篩下残渣等⇒セメント原燃料化
- ・ 木くず⇒バイオマス発電燃料等
- ・ 可燃性災害廃棄物⇒他都市協力施設等



※ 平成29年3月末時点で熊本市内に6箇所の二次仮置場を設置しており、災害廃棄物の発生・処理の進捗状況に応じて順次、箇所数を増減する。